

桃原

注目の
沖縄住宅
05

見渡す限り
サトウキビ畑
シンプルさが
自然と共存する



1

サトウキビで住空間が埋もれてしまわないよう、1階を駐車場などピロティに。2階と3階が居住スペース



【南城市】
桃原邸

自然の移り変わりを肌で感じ、心を躍らせる。葉っぱに当たった光、サトウキビの音、虫の声や鳥のさえずり……。これが、南城市に住まう桃原家のありふれた光景だ。

「親から譲り受けた土地なので、資金面での苦労はありませんでした。が、3年ぐらい前から持ち家を……この話が持ち上がったとき、本当にこの大自然の中で暮らしていいのか不安があったんです。私はこの土地の出身ですが、仕事の関係でずいぶん都会暮らしが長かったですし、家内は千葉県出身、娘達は都心部でしか暮らしたことがなかったものから」

とご主人の淳さん(40歳)。しかし、いざ暮らしてみるとそんな心配をよそに、中学2年生、小学5年生、小学2年生の三姉妹はすんなりと自然に溶け込み、入居から6カ月がたった今では健康的に日焼けした肌を輝かせている。子供部屋は、2階のリビングルームの吹き抜けと連続した、3階の広々としたひと部屋。夫婦の寝室とクローゼットに隣接し、勉強机の陳列を工夫することで個人のスペースを十分に確保できている。これは、家を設計する際に「家族のつながりや、気配がわかる空間構成を大切に」という設計者・福村俊治氏の細やかな心遣いによるもの大きい。

「まず、住居は周囲の街並みと景観をそろえることが大事ですから、外壁は自然の緑や空の青さの原色と相性がいい、無彩色にしました。1階部分を駐車場などのピロティにして

2階と3階を居住スペースにしたのも、高さが3層にもなるサトウキビの高さを考慮し、見晴らしと風通しをよくするためです」

青々と茂ったサトウキビ畑が見渡せるダイニングとリビング、そして和室。この住空間は、半戸外の広いテラスやサトウキビ畑と連続しているオープンな印象。自然との共存を感じ、テラスでバーベキューをするなど人とのコミュニケーションが生まれる最高の空間だ。

住空間は非常にシンプルな構造でありながら、建物全体からこんなにもダイナミックな印象を受けるのは、澄んだ空と連結しているかのような白い屋根の効果が大きい。沖縄の伝統的な赤瓦屋根を連想させるデザインには、「新しい沖縄の住宅スタイルでは、沖縄の気候風土や人の優しさ、そして、懐かしさを感じる空間づくりが大切だ」との福村氏の心意気を感じられる。

「この住宅は都心部でもなく海辺でもなく、桃原さん一家が南城市のこの環境、つまりサトウキビ畑に囲まれて暮らすからこそ、実現したものです」

住み心地がいい上に、人からうらやましがられる念願のマイホームを手にすることができた桃原さん一家。「友人から、お前は幸せ者だつていわれます」

と照れくさそうに話す淳さんだが、自らが生まれ育った土地で、そしてこの住まいで、子供の成長が見届けられる喜びは、想像以上のものに違いない。



2



3

1: 2階のリビングから3階の子供部屋は、吹き抜けて開放的に 2: 白とベージュを基調にして、洗練されたリビングを演出 3: 屋根に覆われた2階部分のテラス。「今後はもっと植栽を飾りたい」 4: 「あってよかった」と納得の和室。注目は床の間。ビニールクロスのデザインによって、一段と洋テイストが増している 5: 光が差し込む浴室でリラックス

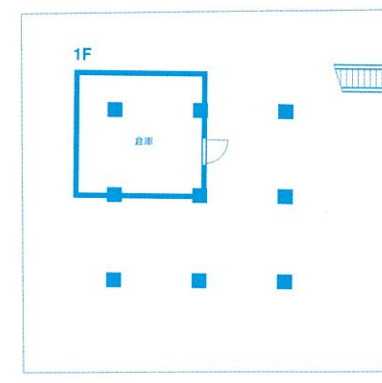
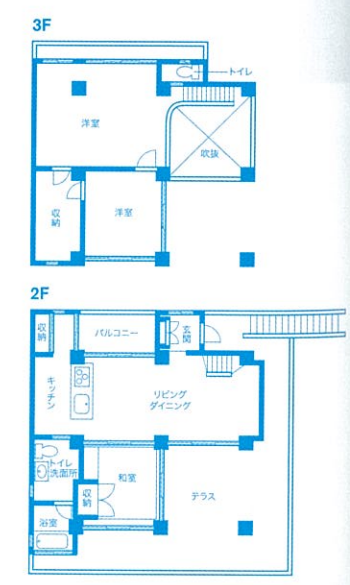


4



5

桃原邸データ
 築年数……6カ月
 敷地面積……500㎡
 建築面積……91.5㎡
 延床面積……138.5㎡
 コスト……非公開
 設計……team DREAM
 ……☎098-866-5038
 ……http://www.dream-archi.com
 ……(P48参照)



上: 大自然に囲まれた生活を満喫している桃原さんご夫妻
 下: 夫人の身長に合わせて設計されたダイニングから、リビングを眺める。存分に光が差し込み、風通しもいい